

平成21年度

事業報告書

財団法人

日本高等学校野球連盟

◇ 事業の状況

1. 高等学校野球の振興、指導および加盟団体に対する監督

(1) 年度内に全国理事会を4回、また毎月定例として常任理事会を開催（12月を除く）して案件の審議、決定を行いました。更に各種専門委員会を必要に応じて随時開催、諸問題の審議、検討を行い高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。

また年度内各都道府県高等学校野球連盟会長会議、同理事長会議をそれぞれ各1回開催し、加盟団体との連絡と諸問題の伝達、徹底を計りました。

(2) 高等学校野球の健全化促進のため、本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。

2. 高等学校野球の調査、研究

(1) 年度内に開催された第81回選抜高等学校野球大会ならびに第91回全国高等学校野球選手権大会に参加した出場校に、大会会期中の宿舍生活実態と参加経費、寄付金募集の状況と過不足金の処理方法などの内容についてアンケート調査しました。両大会運営委員会ならびに理事会においてこの集計を報告、今後の指導方法と対策を検討しました。

(2) 5月末現在を基準とした硬式、軟式両加盟校の部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が169,449人(151人増)、軟式が11,532人(82人増)。硬式の部では、12年連続前年比増で過去最高を記録。また、加盟校数は硬式が昨年から31校減の4,132校、軟式が12校減の488校であった。

3. 高等学校野球大会の開催および協力

(1) 第81回選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で3月21日から4月2日までの12日間、阪神甲子園球場で開催、1月23日に開かれた選考委員会で選考された32校が参加し無事盛況のうちに終了、清峰高等学校（長崎）が初優勝を果たしました。準優勝は花巻東高等学校（岩手）。

(2) 第91回全国高等学校野球選手権大会

朝日新聞社と共催で8月8日から24日までの15日間、阪神甲子園球場で49校が出場して開催。中京大中京（愛知）が43年ぶり7回目の優勝を果たしました。準優勝は新潟県勢として初めて決勝に進出した日本文理高等学校。

(3) 第54回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て8月25日から30日までの6日間、兵庫県の明石公園野球場と高砂市野球場で開催しました。参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。作新学院高等学校（北関東・栃木）が2年連続8回目の優勝を果たした。準優勝は、名城大学附属高等学校（東海・愛知）。

(4) 第64回国民体育大会・高等学校野球競技

新潟県で9月27日から30日の4日間開催。硬式の部は、HARD OFF ECO スタジアム新潟で12校が参加。決勝は県立高校同士の対戦となり都城商業高等学校（宮崎）を破った岐阜商業高等学校（岐阜）が62大会ぶり2回目の優勝を果たしました。

軟式の部は、荒川球場と神林球場で10校が参加。東山高等学校（京都）が初優勝。準優勝は神戸弘陵高等学校（兵庫）。

(5) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、北信越、東海、中国、四国、九州の全国8地区で4月下旬から6月上旬にかけて開催、しました。なお、近畿大会は新型インフルエンザの影響により中止となりました。

(6) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国10地区で10月上旬から11月上旬にかけて開催、無事終了しました。

(7) 第40回明治神宮野球大会・高等学校の部

11月14日から19日まで5日間、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、東京都のほか9地区から各1校が参加し、大垣日大高等学校（岐阜）が初優勝を果たしました。

[海外派遣ならびに招待]

次の通り年度内に海外招待ならびに国際大会を行い、野球を通じて国際親善の実を挙げました。

(1) 日米親善・ハワイ州選抜チーム招待

6月11日から23日まで13日間、ハワイ州選抜チーム（役員6人、選手18人）が来日。徳島、香川、岡山（雨天中止）、愛媛、高知、各県選抜チーム、全日本選抜チームと親善試合を行い、結果はハワイ州選抜チームの4戦1勝3敗でした。

(2) 第8回アジアAAA野球選手権大会・全日本選抜チーム（関東地区選抜）

韓国派遣

8月23日から31日まで9日間、全日本選抜チーム（関東地区選抜の役員11人、選手18人）を韓国に派遣。大会には日本、韓国のほか、中国、中華台北、タイ、スリランカ、の6カ国・地域が参加。結果、全日本選抜チームは、3位。

(3) 日米親善・全日本選抜チーム米国派遣

9月1日から9日まで9日間、全日本選抜高校チーム（役員10人、選手18人）を米国・ロサンゼルス郊外のコンプトンに派遣。アーバンユースアカデミーと親善試合（3試合）を行った。結果は、1勝1敗1分。

4. スポーツ医科学の調査、研究

(1) 年度内開かれた第81回選抜大会と第91回選手権大会に参加する投手全員を対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

	(81回選抜)	(91回選手権)
検査受診者数	105人	132人
	肩・肘	肩・肘
X線所見・肘（剥離骨折）	なし 17人	なし 28人
同　・肘（遊離体）	なし 2人	なし 1人
	肩・肘	肩・肘
医師の診断　軽度の炎症	9人 11人	2人 13人
中程度の炎症	なし 1人	なし 1人
重い炎症	なし なし	なし なし

以上の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

5. 一般アマチュアスポーツ団体との協力、提携

年度内に次の団体と協議、懇談会を開催、アマチュアスポーツの振興、発展に努めました。

(1) 全国高等学校体育連盟との定期連絡会

8月10日と11月11日の2回、連絡会を開催。当連盟からは6月末に実施した特待生制度の採用状況を報告と選手権大分大会での野球部員の乗車したスクールバスが転倒し死亡事故が発生した概要の説明。高体連からは外国人留学生300人の状況と財政問題の一環としてゼッケンへのスポンサー広告の導入と参加料の値上げなどが報告された。また、新型インフルエンザについての感染状況や大会での取り扱いなどについても意見交換しました。

(2) 日本中学校体育連盟との協議

3月25日に日本中体連軟式野球競技部から全日本軟式野球連盟加入の経緯と現状について説明を受けた。当連盟からは、特待生制度の調査結果と今後の調査の予定内容について説明。さらに、中学校校長の推薦書が必須の条件であることへの理解と協力をお願いしました。

(3) アマチュア3団体連絡会

日本野球連盟、日本学生野球協会（全日本大学野球連盟）と当連盟で定期的に連絡会を開催。全日本アマチュア連盟関係の諸問題について話し合った。さらに、「日本学生野球憲章」の改正に伴うプロ・アマ関係問題の今後の協議とオリンピック野球競技復活がならなかった今後の対応についても、プロ野球側とも引き続き協議を行うことを確認した。

6. 高等学校野球の指導者、審判等の講習会開催

(1) 審判講習会

第49回全国審判講習会を4月25、26日の両日、実技は阪神甲子園球場、また座学は中沢佐伯記念野球会館で実施。各都道府県から参加した受講者を対象にルール研修や実技指導を行いました。

また、北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

さらに、中学・少年野球育成事業の一環として、少年野球合同審判講習会を2月6日、7日に開催、受講者80人を対象に審判技術の統一と向上を図った。

(2) 新任理事長研修会

2月4日、5日に開催。研修会では学生野球憲章をはじめ、各種の規定や通達の解説、また選抜、選手権大会の出場校に対する参加上の要領等を説明、本年度に就任の理事長11名が参加しました。

以 上